

# 姫城地区地域福祉活動計画

「優気」をもってふれあって  
学びあってつながろう 姫城の宝たち  
～姫LOVE増殖中！～



都城歴史資料館の風景

令和8年3月

《姫城地区地域福祉活動計画策定委員会の皆さん》



～姫LOVEでつながる地域づくり～

姫城地区では、5回の策定委員会で協議を重ねました。熱い議論の結果として、『『優気』をもってふれあって 学びあって つながろう姫城の宝たち～姫LOVE増殖中！～』という活動スローガンになりました。

協議の中では「隣り人が悲しんでいれば、私も喜べない。自分だけが幸せであることはない。それは、幸せは必ず誰かと一緒なものだから…。悲しい人がいれば、その人に寄り添い、大丈夫だよ、わたしがいるよ…。そんな姫LOVEでいっぱいになって欲しい。それが、策定委員の祈りでした。協議を重ねることで、振り返りも多く、新しい地域発見もありました。

それは、地域における宝とは一、すべての人だということです。すべての人が幸せを感じる姫城地区にしたい。

これからも、姫LOVEを増殖していきたいと思います。



姫城地区地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 高木 かおる

## 《策定委員会の進め方》

### 第1回

姫城地区の“今”と“これから”を共有  
この5年間で感じた“地域の変化”  
を一人ひとりが思い返した。代  
表エピソードを深掘りし、大事  
なキーワードを抽出。  
～心をつかまれる体験～



### 第2回

前回、掘り下げられなかった方  
のエピソードも含めて全員で共  
有し合う。皆が感じた姫城地区  
の“良さ”や“価値観”が少しずつ形  
に…  
～姫城の「宝」LOVE!!～



### 第3回

“これから取り組むこと”を具  
体的に協議し姫城の未来の姿を  
描く。前回までで見つけた価値  
観を土台に「どう動けば地域が  
もっと良くなるか」皆の意見を  
計画に反映。



### 第4回

「想いだけでは続かない」どう  
すれば無理なく長く取り組める  
か、そんな委員長の挨拶もあり  
これから取り組むことに対して  
4つの視点から、考える。  
①組織体制 ②財源  
③事務局機能 ④拠点



### 第5回

第4回策定委員会まで出た意見を  
反映させた計画シートの最終確認  
を実施。付け加えたい想いや感想  
を共有する。最後に、姫城地区の  
大事な価値観を踏まえてスローガ  
ンを決定



## 地区社協のあゆみ①（設立年月日、活動の経緯）

### 【歴史】

- S58.2.18 姫城地区福祉推進委員会として設立
- H19.5. 姫城地区社会福祉協議会へ改称（事務局活動※第2・4木曜日）
- H21 姫城地区社会福祉協議会広報紙第1号「姫城地区社会福祉だより」
- H23 事務局活動・福祉なんでも相談 ※毎週木曜日
- H24 ふれあい文化祭における福祉健康相談コーナー設置
- H28 姫城地区学習支援「土曜学習会」
- R6 地区社会福祉協議会 LINE 相談窓口の開設
- R7 ひめぎの保健室

### 【受賞歴】

- R3 年度 都城市社会福祉協議会 会長表彰
- R4 年度 都城市長表彰
- R5 年度 県社協会長表彰

### 【主な事業】

- 福祉なんでも相談窓口の開設（毎週木曜日）
  - ・子育て・介護・家族のこと・地域交流などお悩みやご相談など、LINE による相談も可
- ひめぎの保健室
  - ・地域包括支援センターと連携したところとからだのことについての相談窓口。
- クリスマス会・夢のランチ会
  - ・土曜学習会の学習後のお楽しみ活動。
- 三世代交流事業（自治公民館単位）
  - ・自治公民館単位で行う交流活動の助成
- 在宅介護者のつどい（年1回）
  - ・地域の在宅で介護している家族や介護者が集い情報交換や交流、リフレッシュを実施
- こども育成活動支援（図書購入費助成事業）
  - ・小中学校へ書籍代の助成を行う
- 地域・社会福祉施設等意見交換会
  - ・地区内の福祉施設、学校関係者、自治公民館長などと意見交換会を実施
- ふれあい文化祭における福祉健康相談コーナー設置
  - ・ふれあい文化祭で福祉相談コーナーを設け、地区社協の周知を実施
- 広報誌「姫城地区社会福祉だより」の発行

### 【組織・体制】

会長1名、副会長2名、事務局長1名、会計1名、協力員1名 計：6名

### 【構成】

自治公民館連絡協議会、民生委員児童委員協議会、高齢者クラブ、第2層生活支援コーディネーター

## 地区社協のあゆみ②（トピック）

### ひめぎの保健室

#### 【トピック①】



地域包括支援センターと連携し、11月から月1回、開設日の時間帯に「こころとからだのこと」を相談できる窓口を開設している。ちょっと話を聞いてほしい方や薬の説明を求める方が来所し、病院では聞きにくい内容についても、看護師や保健師が丁寧に対応し、食事内容や栄養バランスの確認も行っている。

#### 【トピック②】

### 夢のランチ会



姫城地区まちづくり協議会が実施する「土曜学習会」の閉講式後に開催する。事前アンケートの要望を踏まえ、消防士および栄養士を講師に招き、職業のやりがいや人のために働くことの意義について講話を行う。あわせて参加者で会食・交流の場を設け、子どもたちが多様な職業観に触れ、自身の将来を考える機会とする。

#### 【トピック③】

### 在宅介護者の集い



在宅介護者を対象に、地域包括支援センター等関係機関と連携し、フラワーアレンジメントを実施。講師に小倉花商の方を招き、参加費無料でクリスマス風の作品を制作した。花の名前や意味の解説もあり、自由な雰囲気の中で交流が生まれた。終了後は正月用の花も持ち帰り、自宅での再制作につなげた。

# 創造の道すじ ～笑顔と安心を生み出す「好循環（サイクル）」～

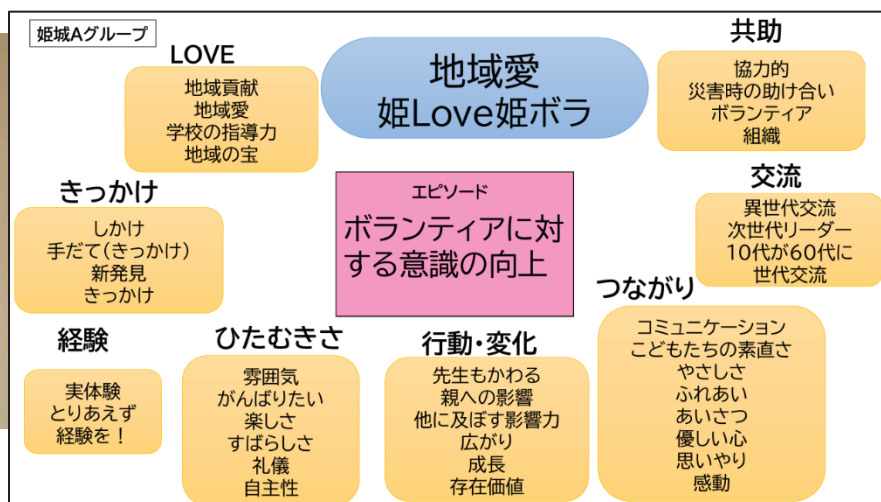
第5次地域福祉活動計画を策定するにあたり、全15地区で現状の「課題・願望」と未来への「想い」をシートに書き出しました。そこには現場のリアルな熱い想いが詰まっています。

## 1. 地区の全体スローガン：これから5年間の目指す地区全体の指針とは？

⇒第5回策定委員会（最終回）では、地区全体のスローガンを決めました。

## 2. 行動指針：地域での活動や取り組みを導く大事な価値観とは？

⇒第1回～2回策定委員会では、「最もすごいチェンジ」を出し合いました



◆第5次都城市地域福祉活動計画「姫城地区地域福祉活動計画シート」（抜粋）

地区全体 スローガン	行動指針	活動・事業
<p>「優気」をもって ふれあって 学びあって つながろう 姫城の宝たち</p> <p>～姫LOVE 増殖中！～</p>	<p>いろいろな団体と 地域がテーマで つながり、地域貢献 や災害時において 助け合える 関係を築いていこう</p>	<p>地域福祉施設意見交換会 ・地区内の関係機関と姫城地区の課題を協議</p>

これまでの活動を整理し、未来へ向かってどう進んでいくか、「その道すじ（ロジック）」を解説します。

### 3. 実現に向けて必要なこと：その価値観を大事に、実現に向けて必要なことは？

⇒第3回～4回策定委員会では、「これから取り組むこと」「何が整えば実現できるか」を話し合いました。

#### 【入り口（楽しさ・共感）：人が集まる】

多世代・笑顔・わくわく・サロン・顔見知りを増やす・参加へのハードルを下げる

↓ ここから信頼が生まれる ↓

#### 【深まり（信頼・支え合い）：相談できる】

ちょっとした困りごと・キャッチ・見守り・楽しい場でできた関係性から

↓ これが安心をつくる ↓

#### 【土 台（持続可能な仕組み）：無理なく続ける】

拠点・IT・自主財源

新「地区社協」創造への道すじ

#### 実現に向けて必要なこと

##### これから取り組むこと

##### 【防災をテーマにした継続的な話し合い】

・要支援者の避難行動計画や避難先の安全確保について話し合う。  
・障がいのある方への防災支援について学ぶ。

##### 【施設・民生委員・住民の連携強化】

・互いの活動を理解し、協力し合える関係を築く。

##### 【次世代とともに進める地域防災の取組】

・中学生をはじめとした若い世代の参画を進め、防災活動を通して人材を育成する。

##### 何が整えば実現できるか

##### 【組織体制】

・地区社協、福祉施設、公民館長、民生委員、若い世代

##### 【財源】

・地区社協の協力金  
・地区社協活動推進助成金

##### 【事務局機能】

・車椅子や杖利用者の動線を体験し地域の設備や危険箇所を把握する。  
・意見交換会と訓練を年間サイクルで実施し、課題や現状を共有する。  
・地図を使ってエリアごとの課題を確認し、防災・介護・障がいなどテーマ別に継続的に取り組む。

##### 【拠点】

・福祉センター、必要に応じて施設を拠点

目指す  
地区社協像

※これ以降を参照

## 第5次都城市地域福祉活動計画の体系図

第5次都城市地域福祉活動計画 全体スローガン

笑顔でつながり 未来を綾なす 新しい地域

### 新「地区社協」創造

#### 3つの行動原則

1. 「ゴール」を目指す姿 笑顔が集まる、誰もが主役になれる居場所をつくる
2. 「エンジン」推進力 多様な力とつながり、広がる共感で地域を動かす
3. 「ベース基盤」 小さな「困った」を見逃さず、無理なく支える仕組みをつくる

#### 実現のための4つの創造

1. 組織体制：「固定化」から「チーム戦」へ
2. 財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ
3. 事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ
4. 拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ

### 15地区地域福祉活動計画

姫 城／「優気」をもってふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち ～姫 LOVE 増殖中！～

妻ヶ丘／笑顔で声かけ 未来へつなぐ 妻ヶ丘

小松原／世代をこえて 笑顔でつながる 小松原

祝 吉／未来につなぐ笑顔のまち祝吉 ～ありがとうをいっぱい咲かせよう～

五十市／誰もが まんなか 活気あふれる いそいち

横 市／みんながつながる横一愛

沖 水／ささえ愛 笑顔でつながる 沖水の和

志和池／みんなの笑顔でつながる未来へ ほっぶ すてっぶ 志和（しゅわ）っ池（ち）！

庄 内／地域を愛し、お互いさまの心でみんなが支え合うまち・庄内

西 岳／西岳1チーム お互いさまで、ほっこりにっこり～ぼちぼちやってみろかい～

中 郷／みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

山之口／すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高 城／未来へつながる ほっこり思いやりのまち高城

山 田／ふれあい、ささえあい、つながりあう 福祉のまちづくり

高 崎／支えあい未来にながる★きらり★高崎

### 都城市社協経営基盤強化計画

1. 組織・人材

2. 財政

3. 事業

4. 拠点

## MSCのエピソード

○活動を通じて地域でおこった変化「良かったこと」「うれしかったこと」

※Most Significant Change (MSC) ≡ 「最もすごいチェンジ」



魚のつかみ取り



姫城地区ふれあい文化祭の  
来場者の増加。

R5 : 619 名、R6 : 958 名



ボランティアに対する  
意識の向上



一人暮らしの高齢者へ見  
守り民生委員が最近では御  
用聞き民生委員になった



公民館が身近な存在に！障害者の方々  
と月1回早鈴公民館の清掃に参加。そ  
れぞれ、公民館の印象が変わった

ほかにもこんな素敵なエピソードがありました！

○姫城地区の自治公民館で講座をした時のこと。参加者の方が、他の地域の方に、良かったと言葉で伝え、広めてくださった。

○友達との関わりが苦手だった子供が、心を開いてくれるようになった。

○本地区に来て、まだ3ヶ月なので…あいさつ運動(見守り)が盛ん。歴史マップがある～学校でも使える。

○つながりの大切さを実感することができた。

○子ども達のことを地域の方々が大変よく知ってくださっています。朝の元気のない様子や、気になることなどお伝えくださったり、よりそって一緒に登校してくださったりしている。

○独居の方がいつも行くコンビニとの連携がとれた事。

○姫城地区まちづくり協議会で、(土曜学習会)閉講式後の「夢のランチ会」を開催され、子ども達との食事時間が楽しく、心に残っている。

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>地域の方が地域で安心して笑顔で生活できるための見守り、思いやり、助け合っ取り組んでいこう</p>	<p>① <u>ふくしなんでも相談</u> 開設日：毎週木曜 9時～12時 会場：中央公民館 ・LINE相談窓口新設 ・「ひめぎの保健室」</p>	<p>【SNSを活用した相談・情報発信の強化】 ・LINEやInstagram、チラシ等を活用し、地域活動や相談先の情報を発信する。</p> <p>【「ひめぎの保健室」としての機能充実】 ・健康・交流・相談ができる場として充実させ、「お茶飲み会」のように気軽に立ち寄れる居場所づくりを行う。</p> <p>【親しみやすく、相談しやすい場づくり】 ・福祉に限定しない親しみやすい名称へ。 ・相談員の紹介や具体例を掲示し安心感を高める。</p>
<p>いろいろな団体と地域がテーマでつながり、地域貢献や災害時において助け合える関係を築いていこう</p>	<p>② <u>地域福祉施設意見交換会</u> (年1回) ・地区内の関係機関と姫城地区の課題を協議</p>	<p>【防災をテーマにした継続的な話し合い】 ・要支援者の避難行動計画や避難先の安全確保について話し合う。 ・障がいのある方への防災支援について学ぶ。</p> <p>【施設・民生委員・住民の連携強化】 ・互いの活動を理解し、協力し合える関係を築く。</p> <p>【次世代とともに進める地域防災の取組】 ・中学生をはじめとした若い世代の参画を進め、防災活動を通して人材を育成する。</p>
<p>ありがとうの気持ちを大切に、「お互いさま」で支え合い、安心して暮らせる地域のつながりを育てよう</p>	<p>③ <u>在宅介護者のつどい</u> (年1回) ・在宅介護者等の交流と情報共有によるリフレッシュが目的</p> <p>④ <u>生活おたすけサービス援助員養成</u> 利用者数が増加しているが援助員登録が不足</p>	<p>【介護者同士が支え合える場づくり】 ・介護の悩みや情報を共有できるつどいを継続する。</p> <p>【学びと交流の機会の充実】 ・企業とのコラボした講話や情報提供を取り入れ、内容の充実を図る。</p> <p>【援助活動の継続と担い手確保】 ・地域に援助ニーズがあることを周知し、援助員募集チラシを配布する。 ・活動費の見直しを行い、継続しやすい環境を整える。</p>

# ふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち

## ～姫LOVE増殖中！～

<p style="text-align: center;">実現するために必要なこと ①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</p>	<p style="text-align: center;">目指す地区社協像</p>
<p><b>【組織体制】</b> ・地区社協、若い世代も参画する SNS 発信チーム</p> <p><b>【財源】</b> ・国庫補助金の活用</p> <p><b>【事務局機能】</b> ・SNS 発信チームが中心となり、相談内容や利用方法、開設状況を分かりやすく発信する。 ・対応できる相談内容の具体例を明示し、繋ぎ先もマニュアル化する。</p> <p><b>【拠点】</b> ・Mallmall などアクセスしやすい場所での実施を検討する。</p>	<p>①組織体制:「固定化」から「チーム戦」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人脈を活かし、幅広い人に声掛けしながら年齢層の厚い組織体制にする</li> <li>・地区社協担当者の増員</li> <li>・学校関係者の役員・理事参入</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b> ・地区社協、福祉施設、公民館長、民生委員、若い世代</p> <p><b>【財源】</b> ・地区社協の協力金 ・地区社協活動推進助成金</p> <p><b>【事務局機能】</b> ・車椅子や杖利用者の動線を体験し地域の設備や危険箇所を把握する。 ・意見交換会と訓練を年間サイクルで実施し、課題や現状を共有する。 ・地図を使ってエリアごとの課題を確認し、防災・介護・障がいなどテーマ別に継続的に取り組む。</p> <p><b>【拠点】</b> ・福祉センター、必要に応じて施設を拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関とつながりのある地域</li> <li>・専用事務室の確保</li> <li>・有給職員の雇用</li> <li>・法人格の取得（NPO 法人、一般社団法人等）</li> <li>・策定委員会のメンバーを構成メンバーにする</li> <li>・有償ボランティアの拡大</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b> ・姫城地区社協、在宅介護者、若い世代（人材育成）、地域住民</p> <p><b>【財源】</b> ・地区社協活動推進助成金の活用 ・市社協補助金（おたすけサービス）</p> <p><b>【事務局機能】</b> ・最新の介護技術やロボット・AI の活用について学べる研修や学習会を企画・調整する。 ・援助員の活動や声を発信し、やりがいを伝えながら新規登録者の確保につなげる。（おたすけ） ・募集広報や活動紹介、利用料の見直し等を継続し、無理なく続けられる体制を整える。（おたすけ）</p> <p><b>【拠点】</b> ・中央公民館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業の参画</li> <li>・動きやすいポストづくり</li> </ul>

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>世代を問わず誰もが自由に楽しめる居場所をつくり、地域の企業とも連携し、体験・食・発表を通して多世代が自然に交流できる機会を広げよう</p>	<p>⑤3 世代交流事業助成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流の取り組み(餅つき、他)をされている公民館に餅つき道具の貸し出しなどの活動助成を行う。</li> </ul> <p>【まち協】</p> <p>⑥姫城ふれあい文化祭(10月)・三世代交流フェスティバル(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括センターと一緒に健康相談を実施。</li> </ul>	<p>【多世代が参加できる交流機会の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで参加できる交流事業を実施する。(食やグランドゴルフなどのスポーツをキーワード)</li> </ul> <p>【世代を超えて地域文化をつなぐ取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姫城文化祭での子ども作品展示や、高齢者の品を高校生が紹介する展示を行い、世代間交流を深める。</li> <li>・中高生実行委員の立ち上げや、しめ縄・門松・芸能など地域文化を学ぶ教室を実施する。</li> </ul>
<p>子どもたちに寄り添い、学びと成長を支え、子どもの笑顔が地域の活力につながる活動をみんなで育てていこう</p>	<p>⑦図書購入費助成事業</p> <p>小中学校へ書籍代の助成</p> <p>⑧夢のランチ会</p> <p>土曜学習会最終回に職業講話とランチ交流を実施</p> <p>⑨ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姫ボラの活動</li> <li>・姫キッズの取り組み</li> </ul>	<p>【子どもの主体性を育てる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや図書委員が選んだ本を購入・提供する。</li> <li>・不要になった本を子ども自身が考えた場所へ寄付する取組を行う。</li> </ul> <p>【夢のランチ会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業の協力を募り、子どもたちがさまざまな仕事や大人と出会える機会をつくる。</li> </ul> <p>【子ども主体のボランティア活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姫ボラ・姫キッズと地域住民が連携し、協力して活動できる仕組みをつくる。</li> <li>・地域の困りごとを具体的に示し、子どもたちの間で共有する。</li> </ul>
<p>つながり・つながる・元気をもらう経験の場として、自信につながる楽しい機会をつくろう。地域の宝「ヤマエ食品」ともつながりながら…！</p>	<p>⑩男性料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の自立を支える機会</li> </ul>	<p>【多世代交流を目的とした料理教室の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象を祖父と孫、親子(父娘)などに広げ、交流を目的とした場とする。</li> <li>・九電ショールームを活用したIH調理講座や、こんにゃく作り・みそ作りなど体験型の内容を取り入れる。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姫城地区社協、地域住民、子ども・中高生、高齢者</li> <li>・まち協、地区社協、中高生・園、高齢者（文化祭、フェスティバル）</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協支援事業助成金</li> <li>・まち協</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッジボールやスマホ教室、eスポーツなど、多世代が楽しめる3世代交流の企画を調整・支援する。</li> <li>・子どもが料理を振る舞う「逆子ども食堂」や、高齢者が育てた野菜を使った料理企画など、双方向の交流を促進。</li> <li>・中高生が実行委員となり、展示作品のガイドを務め、さらに小さな子どもたちへつなぐ仕組みをつくる。（文化祭・フェスティバル）</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治公民館、地域行事会場、中央公民館、図書館跡地、Mallmall</li> </ul>	<p>②財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人サポーターの募集</li> <li>・協賛企業（スポンサー）の発掘</li> <li>・自主財源確保のためのツール開発</li> <li>・社協のファンを増やして財源確保</li> <li>・サロン等のイベント参加費</li> <li>・地区社協の宝くじ（抽選方式の協賛）</li> <li>・人材を活かした収益事業（演奏、手品）</li> <li>・物品販売</li> <li>・場所、物の貸し出し</li> <li>・有償サービスの導入</li> <li>・忌明け寄付の活用</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、小学生・園児、ボランティア、地元企業、学校、地域住民</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協活動推進助成金、地区社協の協力金、国庫補助金</li> <li>・まち協、民間助成金、規格外食品の寄付（夢のランチ会）</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせボランティアと連携し、図書助成の活用状況や効果を把握する。</li> <li>・園児への読み聞かせや紙芝居づくりを企画し、学校・保育園などとの調整を行う。</li> <li>・子どもが気軽に関われる「第三の居場所」として機能している。</li> <li>・地元企業の協力により、特別な体験の機会を提供している。</li> <li>・防災や行事準備など多方面で関われる活動を用意し、中学生に「困りごとミッション」を提示して解決方法を考えてもらう。</li> <li>・活動名の決定なども含め主体性を尊重し、地域と直接つながって高齢者のちょっとした困りごとに対応できる仕組みを整える。</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校、保育園、地域施設、中央公民館</li> <li>・困っている高齢者や地域住民、地域活動会場など（ボランティア活動）</li> </ul>	
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、地域住民（独居男性・親子など）、企業</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、地域企業協力</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <p>基本的な料理づくりを楽しむ場を企画し、味噌づくりや、ソーセージづくり等の体験型メニューも取り入れる。</p> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館、調理実習が可能な施設（九州電力ショールーム、学校の家庭科室、まちなかキッチン等）を拠点とする。</li> </ul>	

<b>行動指針</b>	<b>現状</b>	<b>これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)</b>
<p>子どもと世代を超えた交流や地域資源との関わりを通して、安心と学びを育み、ふるさとを次世代へつなぐ活動を実践しよう。</p>	<p>【まち協】 ⑪土曜学習会（第1、第3土曜） 12月にクリスマス会開催し、ケーキを配布。</p> <p>【まち協】 ⑫ひめぎ歴史あるき 小学生を対象にした学芸員引率による姫城の名所を巡る</p>	<p>【子どもの状況に応じた学習支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生から継続して参加でき、児童・生徒が講師を選択できる学習支援を行う。</li> <li>・学習支援の日数を学校の出席扱いとし、不登校の子どもには別室で平日に実施するなど、引きこもり予防につなげる。</li> </ul> <p>【地域の歴史を学び、伝える取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生ガイドを担い小学生に地域の歴史を伝える。</li> </ul> <p>【学校と連携したひめぎ歴史歩きの展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の学校事業計画に組み込んでもらい、継続的な取組とする。</li> <li>・学校の授業や文化祭で、ひめぎ歴史歩きを通して気づいたことや学びを発表する。</li> </ul>
<p>これまでつながっていなかった人とも新たにつながり、知ってもらおうきっかけや地域の力を借りるためSNSや発行紙を活用する。</p>	<p>⑬広報・PR（年1回） ・3月に地区社協だよりの発行。</p>	<p>【活動内容の見える化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報やSNSを活用し、活動内容を分かりやすく伝える。</li> <li>・地元企業と連携した情報発信</li> </ul> <p>【若い世代と連携した効果的な情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生・大学生が制作するショートムービー等を活用する。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まち協、地区社協、学校、学習支援サポーター、地域住民</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協の協力金、まち協、民間助成金</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日に開催するなど不登校の子どもへの配慮や居場所づくりにもつなげる。</li> <li>・学芸員から学んだ中学生がガイド役となり、小学生に姫城の歴史を伝える仕組みをつくる。</li> <li>・発表の機会を設けることで学びを深め、郷土愛の醸成につなげる。</li> <li>・地域の歴史に詳しい住民とも連携し、世代を超えて姫城の魅力を伝える。</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館、姫城地区内の名所</li> </ul>	<p><b>③事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局員の配置</li> <li>・相談窓口の多機能化（専門相談会、サロン実施）</li> <li>・週5日開設</li> <li>・地区社協にボランティアコーディネーターの配置</li> <li>・地区担当2人体制</li> <li>・ICTの活用（報告書類の簡略化、デジタル化）</li> <li>・いろいろな事業で企業とコラボ</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <p>姫城地区社協、地元企業、小・中学生、地域住民</p> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、企業協力</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生や小学生高学年、地域住民が参加する SNS 活用チームを立ち上げ、挿絵協力等も取り入れて広報を行う。</li> <li>・紙媒体と SNS を併用し、地区社協だより等を地域内の公共施設や事業所に設置・配布する。</li> <li>・公民館や学校、事業所と連携し、協力してくれる“仲間”に依頼し地域全体で広報を行う体制を整える。</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協、地元企業等広報協力先</li> </ul>	<p><b>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用机を地区公民館内に配置する</li> <li>・子どもの居場所の開設</li> <li>・空き家・空き教室を活用した居場所づくり</li> <li>・1地区に複数（2つ以上）の拠点化</li> <li>・小学校区でのミニサテライト</li> <li>・なんでも相談室を雑談室に</li> </ul>

地区の風景



都城島津灯ろうまっりの風景

策定委員会名簿 ○策定委員長：高木 かおる ○副委員長：柿木原 康雄

No.	氏名	所属
1	柿木原 康雄	姫城地区社会福祉協議会 会長・姫城地区自治公民館連絡協議会・姫城地区まちづくり協議会
2	山口 良一	姫城地区社会福祉協議会 副会長・姫城地区自治公民館連絡協議会
3	岩切 正道	姫城地区社会福祉協議会 副会長・都城市高齢者クラブ
4	谷口 悦子	姫城地区社会福祉協議会 事務局長・民生委員児童委員
5	杉 あかり	姫城地区社会福祉協議会 会計・生活支援コーディネーター
6	徳丸 高雄	姫城地区社会福祉協議会 協力員
7	坂元 恵美子	都城市立明道小学校 校長
8	田中 美充	都城市立南小学校 校長
9	深江 祐史	都城市立姫城中学校 校長
10	日高 みどり	都城看護専門学校 主任看護師・在宅医療介護連携相談支援センター主任看護師
11	高木 かおる	相愛保育園 園長・姫城地区壮年連協 会長
12	河野 謙司	都城商工会議所 事務局長
13	川原 瑞穂	小規模多機能型居宅介護ヒストリアⅠ 職員
14	萩原 純一	介護老人保健施設こんにちわセンター 施設長
15	福田 香織	モジラ・テラス 管理者
16	押川 亘	児童発達支援花ことば 管理者
17	柞木 明人	都城市姫城・中郷地区地域包括支援センター 介護予防事業担当
18	北別府 むつ子	姫キッズ
19	坂本 鈴朗	都城市中央公民館 館長
20	江夏 啓人	ヤマエ食品工業株式会社 代表取締役社長
21	宮崎 敏也	九州電力株式会社 都城営業センター 副センター長
22	杉 太一	旭丘神社 禰宜